

はじめに

中 川 吉 晴

(立命館大学、教育臨床プロジェクト代表)

松 田 佳 子

(立命館大学非常勤講師、教育臨床プロジェクト共同研究者)

本誌「ヒューマンサービスにおけるアートと表現」は、立命館大学人間科学研究所が採択を受けているオープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築」教育臨床プロジェクトの編集によって刊行されるものです。臨床教育プロジェクトでは、これまで、そのひとつの主要な研究領域として、ヒューマンサービスの諸分野におけるアートと表現を媒体とした諸活動に着目してきました。

近年、教育、臨床心理、医療、福祉などのヒューマンサービス領域において、表現することやアートを用いた支援活動の実践が徐々に注目をあび、いろいろな活動が展開されるようになってきました。本誌では、アートと表現を活用し独自の実践や研究活動をおこなっている実践家や研究者の方々をお願いして、実践現場にもとづいた視点や、そこから構築された理論、および実践現場の課題と将来的な可能性を、各自の実践の様子が伝わるようなかたちで、論じていただきました。

私たちは各種の実践を通じて、表現するプロセスやアートを媒体として作業をすることが、対人援助のツールとしていかに有意義であるかを実感しています。アートや表現活動を間において、一緒に活動に向かいあいながら支援をすることで、当事者たちを対象化しない、相互に開かれた援助者の姿勢が高められます。また、アートや表現活動には、当事者と援助者が双方のいのちの動きにふれる手助けしてくれる働きがあります。本誌に収録された論文は、アートと表現活動を媒介にすることによって当事者の生きたりアリティにふれた臨床的記録だとも言えます。

Part I では、ドラマセラピーの第一人者ルネ・エムナー氏による講演をはじめ、対人援助領域にアートや表現することを取り入れるさいに役立つパー

スペクティヴや理論を収録しました。Part IIでは、各領域での実践をとりあげ、現場からの活動報告や考察、および今後の課題を展望する諸論文を収録しました。

本誌の刊行を契機に、ヒューマンサービスの各分野の実践研究のあいだで、共通項が浮かびあがり、相互交流が深まり、幅広い視野をもった活動が展開されることを願っています。